

## 7 子育て支援策

### (1) 結婚・子育ての場所としての奈良県の評価

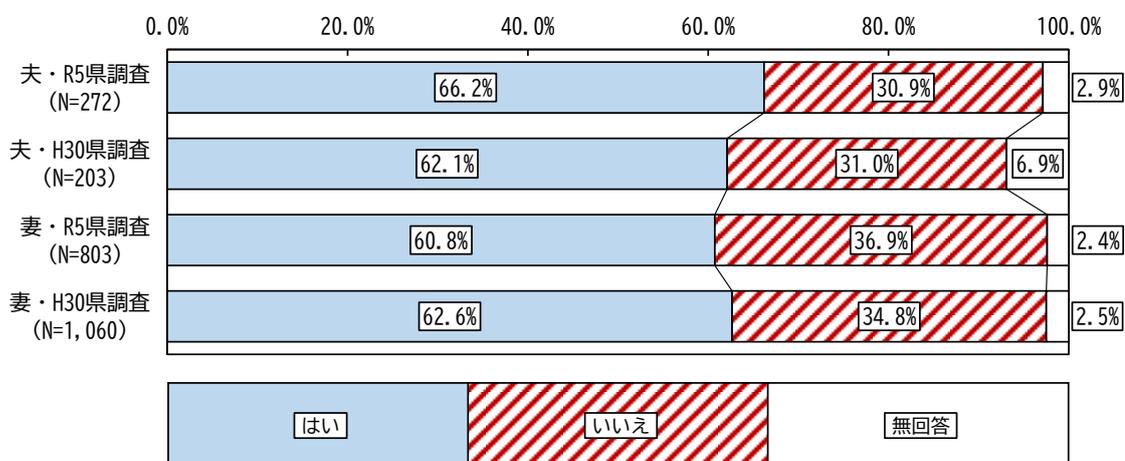
問 17 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思いますか。①あてはまる番号に○をつけ、②③その理由について、あなたが感じている奈良県のイメージにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

#### ①奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところか

奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思うかどうかについては、「はい」が夫で66.2%、妻で60.8%と、夫の方が5.4ポイント高い。

前回調査に比べて、大きな変化はみられない。

図表 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところか



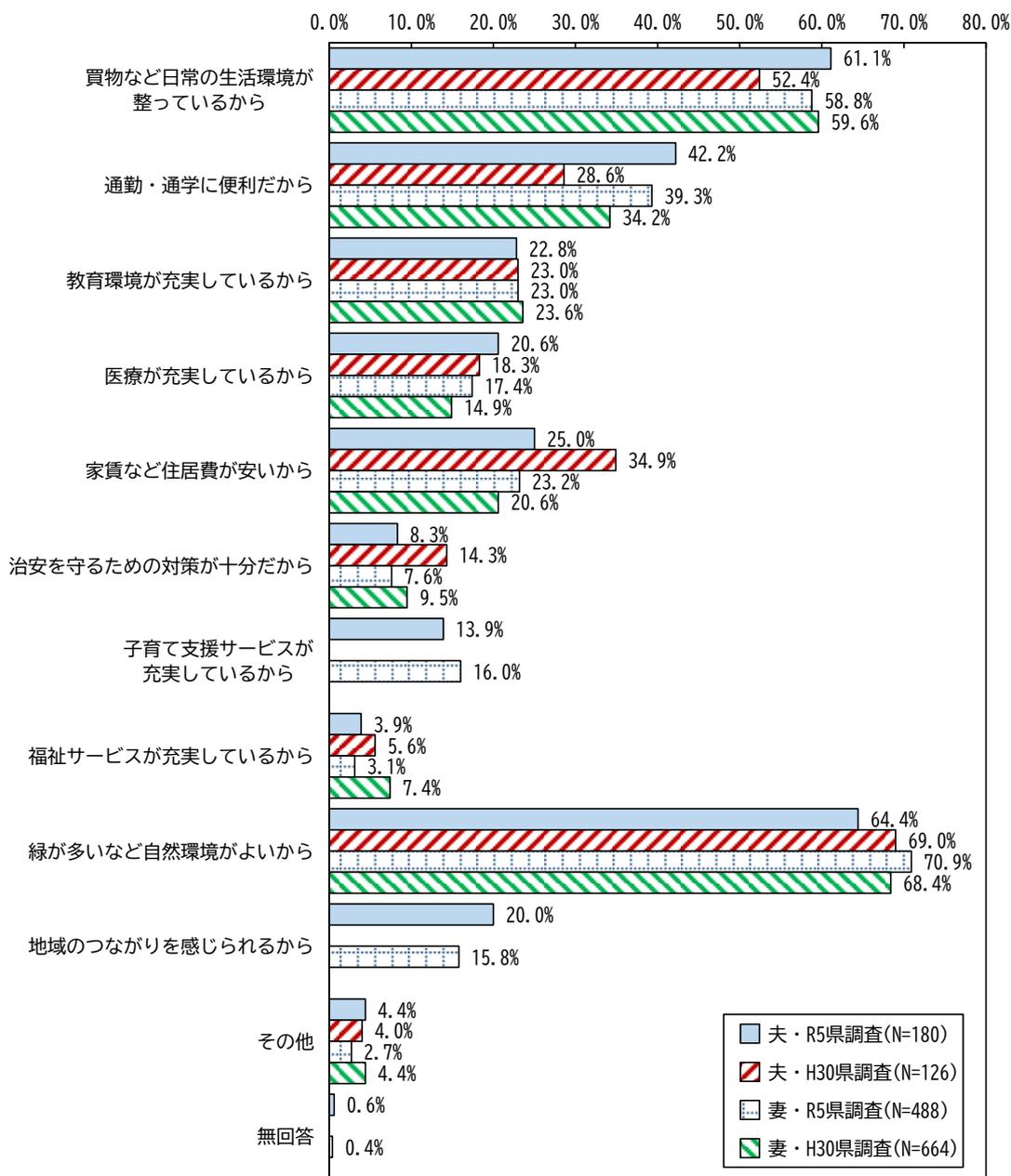
## ②結婚して子どもを生き育てやすいと思う理由

結婚して子どもを生き育てやすいと思う理由をみると、「緑が多いなど自然環境がよいから」が夫で64.4%、妻で70.9%と最も多く、次いで、「買物など日常生活環境が整っているから」が夫で61.1%、妻で58.8%、「通勤・通学に便利だから」が夫で42.2%、妻で39.3%となっている。

夫と妻を比べると、「緑が多いなど自然環境がよいから」は妻の方が6.5ポイント高く、「地域のつながりを感じられるから」は夫の方が4.2ポイント高い。

前回調査に比べて、夫で変動が大きく、「通勤・通学に便利だから」は13.6ポイント、「買物など日常生活環境が整っているから」は8.7ポイント上昇。一方、「家賃など住居費が安いから」は9.9ポイント、「治安を守るための対策が十分だから」は6ポイント、「緑が多いなど自然環境がよいから」は4.6ポイント低下している。

図表 結婚して子どもを生き育てやすいと思う理由



※ 「子育て支援サービスが充実しているから」「地域のつながりを感じられるから」は今回調査からの新規項目

※ H30 県調査では無回答の掲載なし

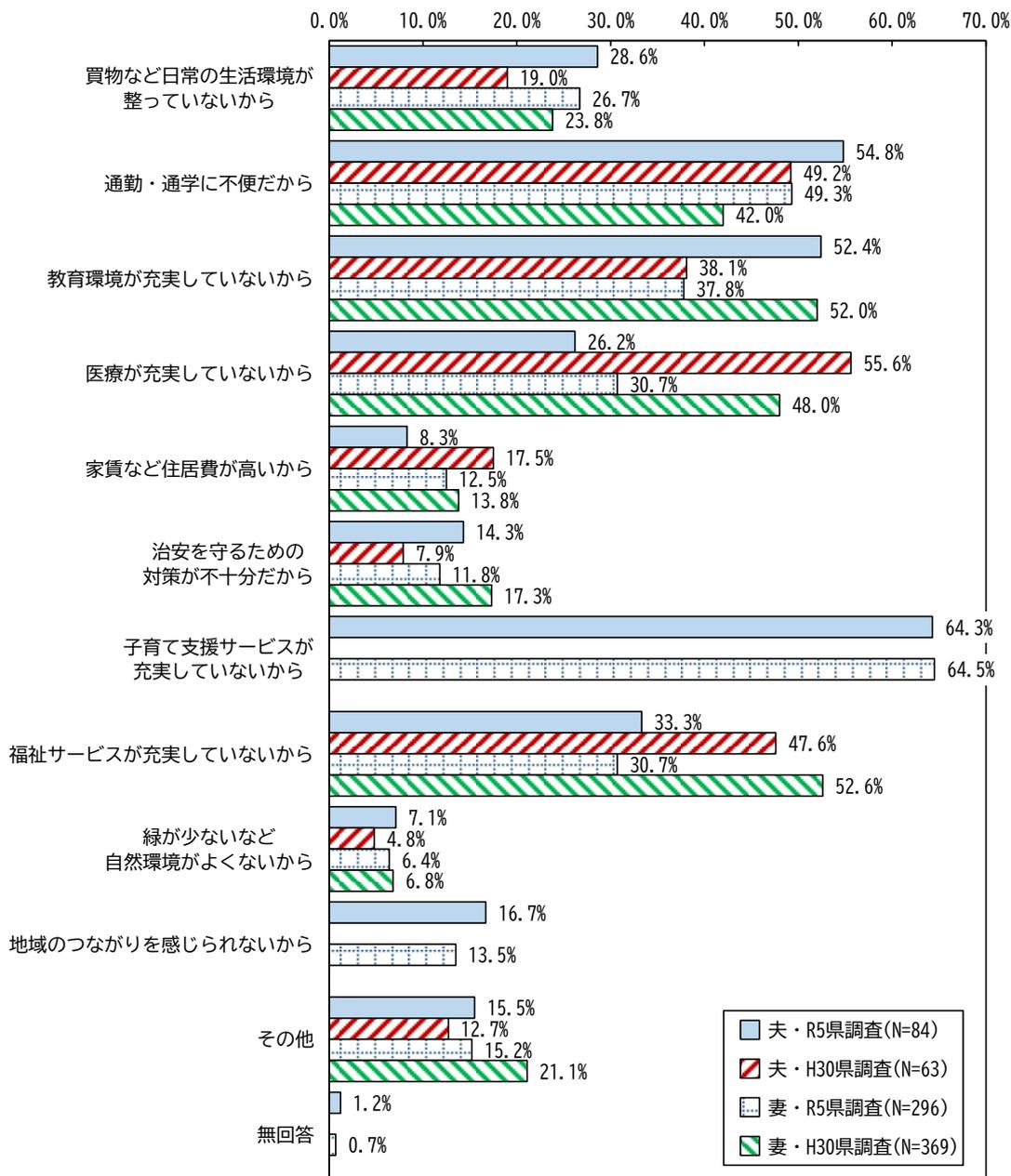
### ③結婚して子どもを生き育てやすいと思わない理由

結婚して子どもを生き育てやすいと思わない理由をみると、「子育て支援サービスが充実していないから」が夫で 64.3%、妻で 64.5%とほぼ同程度で最も多く、次いで、「通勤・通学に不便だから」が夫で 54.8%、妻で 49.3%、「教育環境が充実していないから」が夫で 52.4%、妻で 37.8%となっている。

夫と妻を比べると、夫の方が「教育環境が充実していないから」で 14.6 ポイント、「通勤・通学に不便だから」で 5.5 ポイント、妻より高くなっている。

前回調査に比べて、夫・妻とも変動が大きく、特に「医療が充実していないから」「福祉サービスが充実していないから」は、いずれも 10 ポイント以上低下している。一方、夫では「買物など日常の生活環境が整っていないから」が 9.6 ポイント上昇している。

図表 結婚して子どもを生き育てやすいと思わない理由



※「子育て支援サービスが充実していないから」「地域のつながりを感じられないから」は今回調査からの新規項目

※H30 県調査は無回答掲載なし

## (2) 父親の育児休暇・休業取得

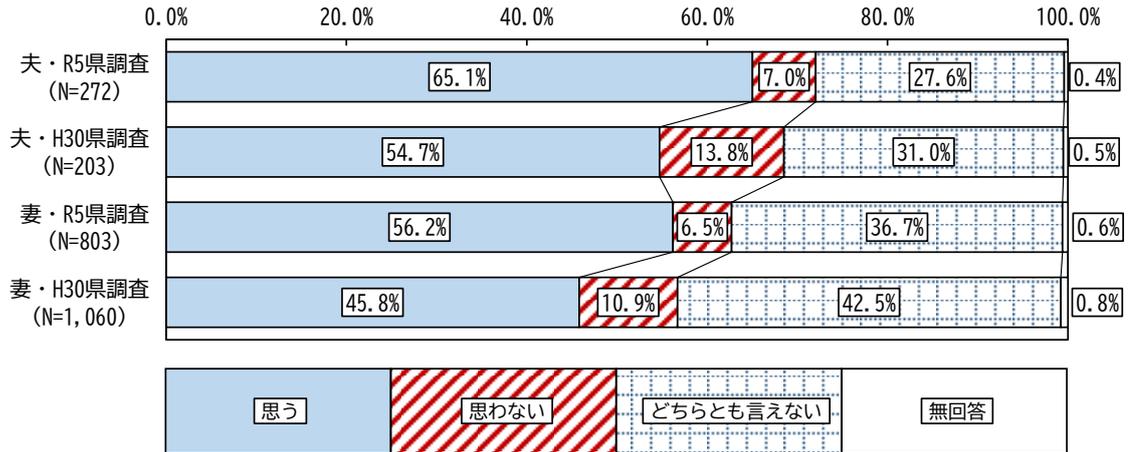
### ①父親が育児休暇・休業をとることについての考え

問 18 父親も育児休暇・休業を取った方がいいと思いますか。

父親も育児休暇・休業をとった方がいいと思う人は、夫で 65.1%、妻で 56.2%と、夫の方が 8.9 ポイント高くなっている。

前回調査に比べて、とった方がいいと思う人は、夫、妻ともに 10.4 ポイント上昇している。

図表 父親が育児休暇・休業をとることについての考え

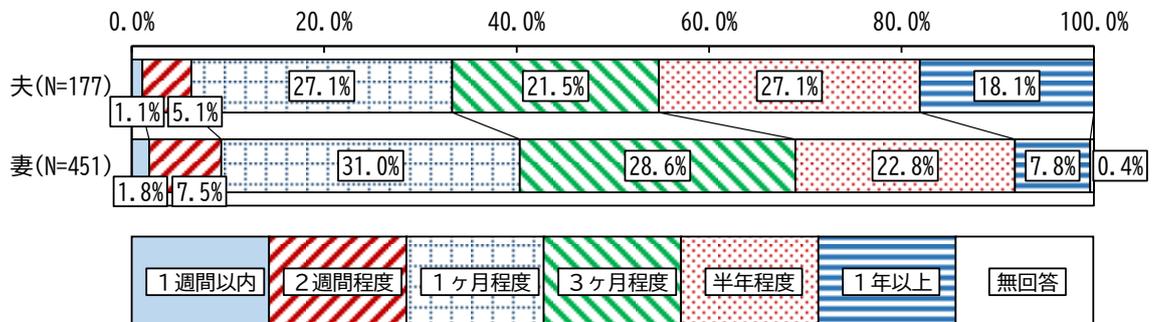


### ②必要だと思う父親の育児休暇・休業の取得期間

問 18-1 問 18 で「1. 思う」を選んだ方にうかがいます。父親の育児休暇・休業の取得期間はどれくらい必要だと思いますか。

必要だと思う父親の育児休暇・休業の取得期間をみると、妻では「1ヶ月程度」が 31.0%で最も多く、次いで、「3ヶ月程度」が 28.6%となっている。一方、夫では「1ヶ月程度」と「半年程度」がともに 27.1%で最も多く、次いで、「3ヶ月程度」が 21.5%となっており、妻よりも長い期間必要だと考える人が多くなっている。

図表 必要だと思う父親の育児休暇・休業の取得期間



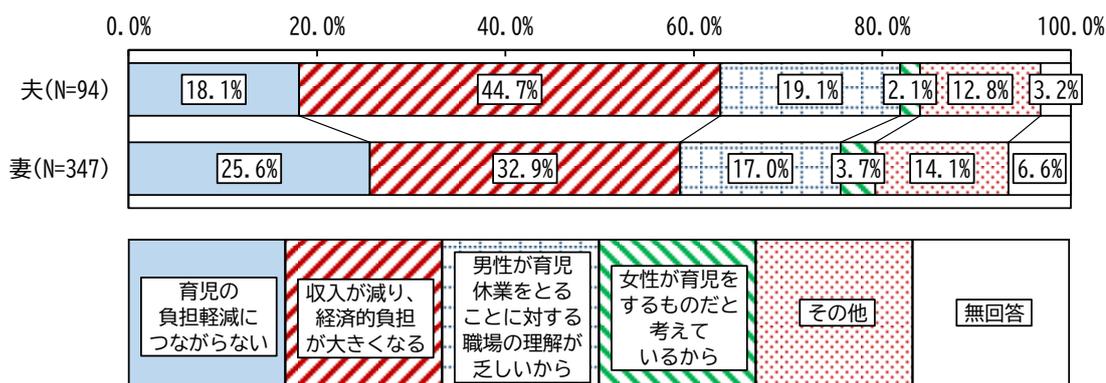
※ 「3ヶ月程度」「半年程度」「1年以上」は今回調査からの新規項目

③育児休暇・休業をとらない方がよい（取得にどちらとも言えない）理由

問 18-2 問 18 で「2. 思わない」「3. どちらとも言えない」を選んだ方にうかがいます。その理由は何ですか。

育児休暇・休業をとらない方がよい（取得にどちらとも言えない）理由をみると、夫・妻とも「収入が減り、経済的負担が大きくなる」が最も多いが、夫で44.7%、妻で32.9%と、11.8ポイントの差がある。次いで、夫では、「男性が育児休業をとることに対する職場の理解が乏しいから」が19.1%で続き、妻では「育児の負担軽減につながらない」が25.6%となっている。「育児の負担軽減につながらない」は、夫より妻の方が7.5ポイント高い。

図表 育児休暇・休業をとらない方がよい（取得にどちらとも言えない）理由



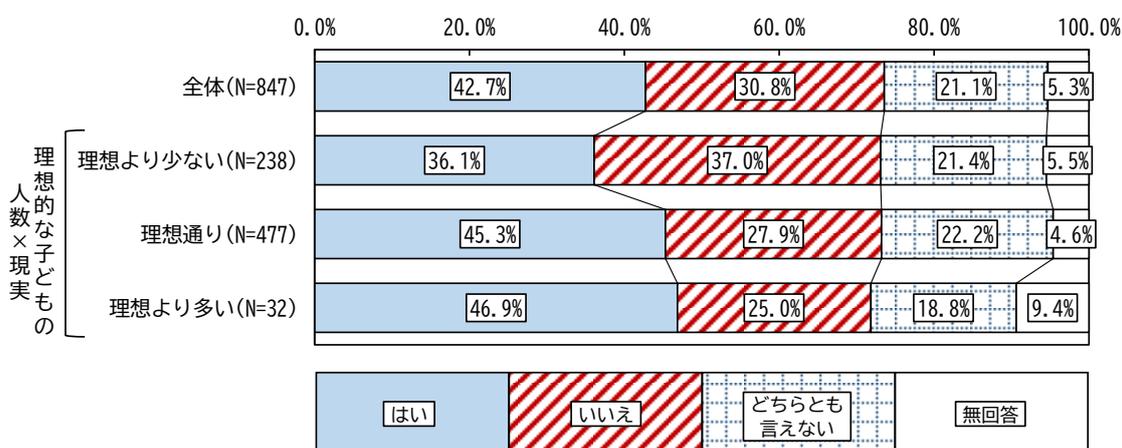
※新規質問項目

④あなたの職場は、男性が結婚・出産・子育てと仕事との両立ができるか

問 19 あなたの職場は、男性が結婚、出産、子育て（育休等）と仕事との両立ができる職場ですか。

男性が結婚、出産、子育て（育休等）と仕事の両立ができる職場かどうかについては、「はい」が42.7%、「いいえ」が30.8%で、「はい」の方が多い。「どちらとも言えない」は21.1%みられた。理想の子どもの人数と現実の子どもの人数とのギャップ別にみると、理想より人数が少ないほど、両立のしにくい職場であることがわかる。

図表 あなたの職場は、男性が結婚・出産・子育てと仕事との両立ができるか



※新規質問項目

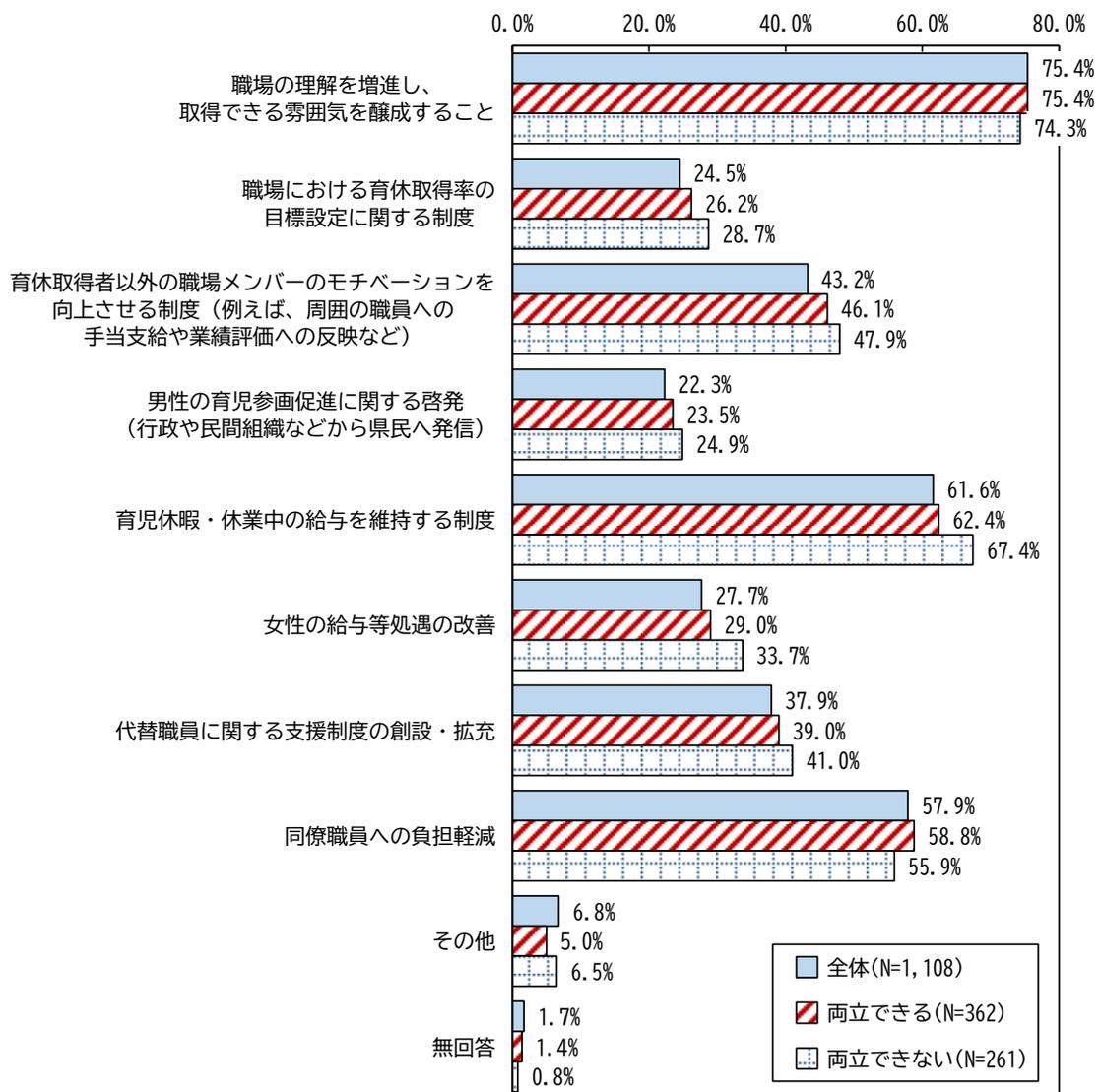
⑤男性が育児休業を取得しやすくするために必要な施策

問 20 男性が育児休業を取得しやすくするためには何が必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

男性が育児休業を取得しやすくするために必要な施策をみると、「職場の理解を増進し、取得できる雰囲気醸成すること」が75.4%で最も多く、次いで、「育児休暇・休業中の給与を維持する制度」が61.6%、「同僚職員への負担軽減」が57.9%となっている。

自身の職場が、男性の仕事と子育ての両立が可能かどうか別にみても、傾向はあまり変わらないが、「育児休暇・休業中の給与を維持する制度」で5ポイント、両立できない層の方が高くなっている。

図表 男性の仕事と子育ての両立可否別・男性が育児休暇を取得しやすくするために必要な施策



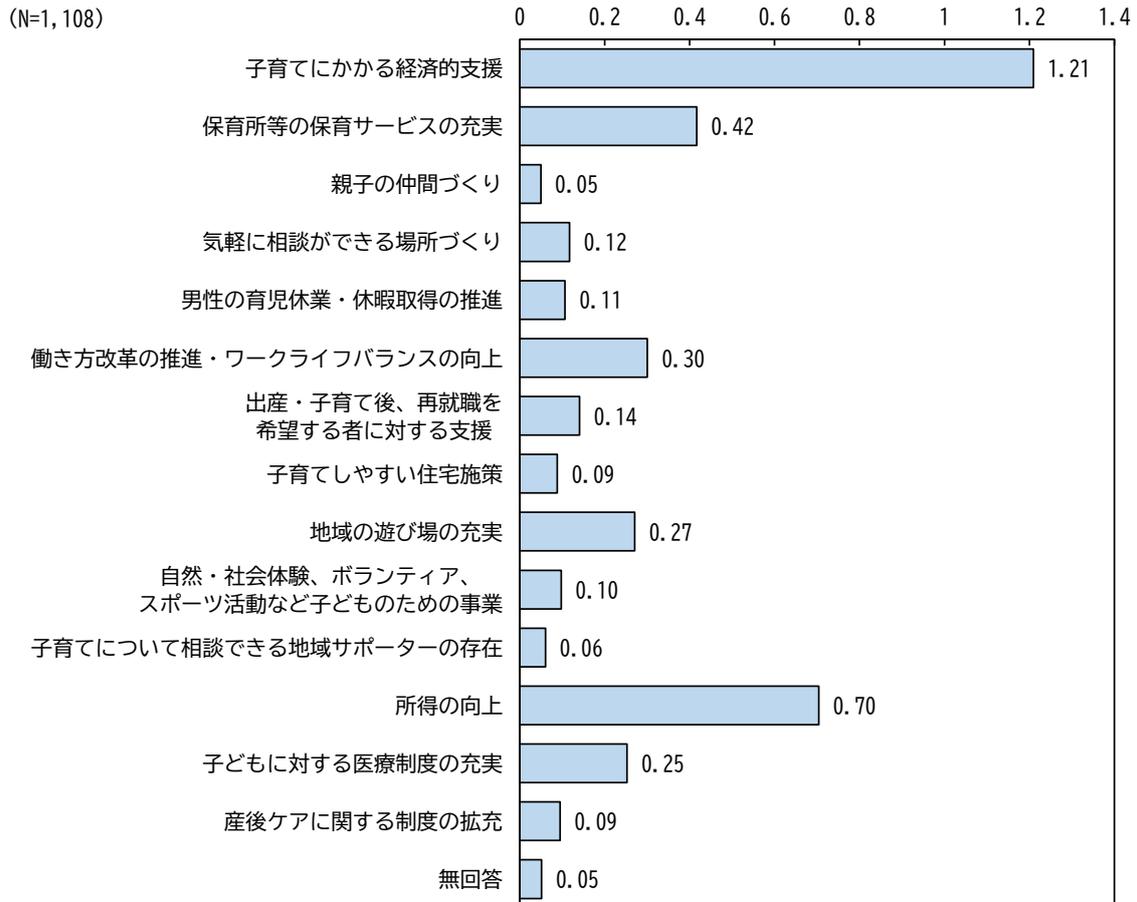
※新規質問項目

### (3) 子育て支援に関する重要度

問21 奈良県で子育てをするにあたり、下記問22の①～⑭の各項目について、最重要だと思うものを1つ、次に重要だと思うものを2つ選んで記入して下さい。

奈良県での子育て支援に関する重要度をみると、「子育てにかかる経済的支援」が1.21点で最も多く、次いで、「所得の向上」が0.70点、「保育所等の保育サービスの充実」が0.42点、「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」が0.30点、「地域の遊び場の充実」が0.27点となっている。

図表 子育て支援に関する重要度



※最重要＝2点、次に重要＝1点として合計し、対象母数で割った値を得点とした

#### (4) 子育て支援に関する満足度

お子さんをお持ちの方にうかがいます。

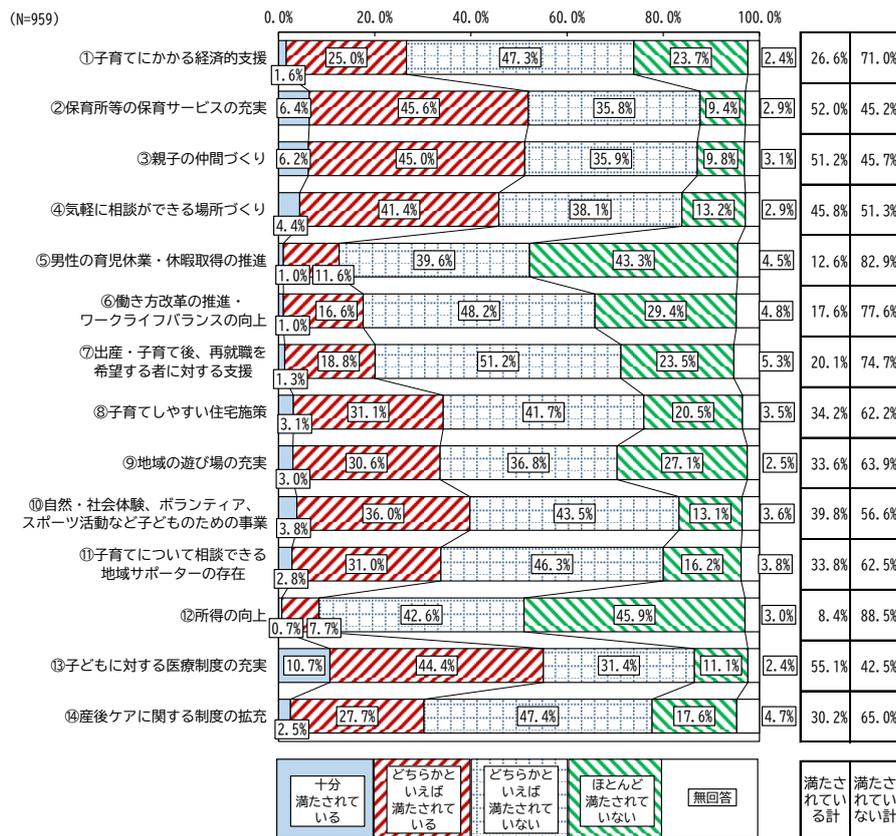
問 22 奈良県で子育てをするにあたり、次の①～⑭の各項目について、どれくらいの「満足度」を感じていますか。各項目それぞれの「満足度」について、あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

「十分満たされている」と「どちらかといえば満たされている」の割合の合計（＝満たされている計）をみると、「子どもに対する医療制度の充実」が55.1%で最も多く、次いで、「保育所等の保育サービスの充実」が52.0%、「親子の仲間づくり」が51.2%、「気軽に相談ができる場所づくり」が45.8%となっている。

一方、「ほとんど満たされていない」と「どちらかといえば満たされていない」の割合の合計（＝満たされていない計）は、「所得の向上」が88.5%で最も多く、次いで、「男性の育児休業・休暇取得の推進」が82.9%、「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」が77.6%、「出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援」が74.7%となっている。

前回調査に比べて、いずれも満たされている計は上昇しているが、最も上昇しているのは「自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業」で9.7ポイント上昇している。

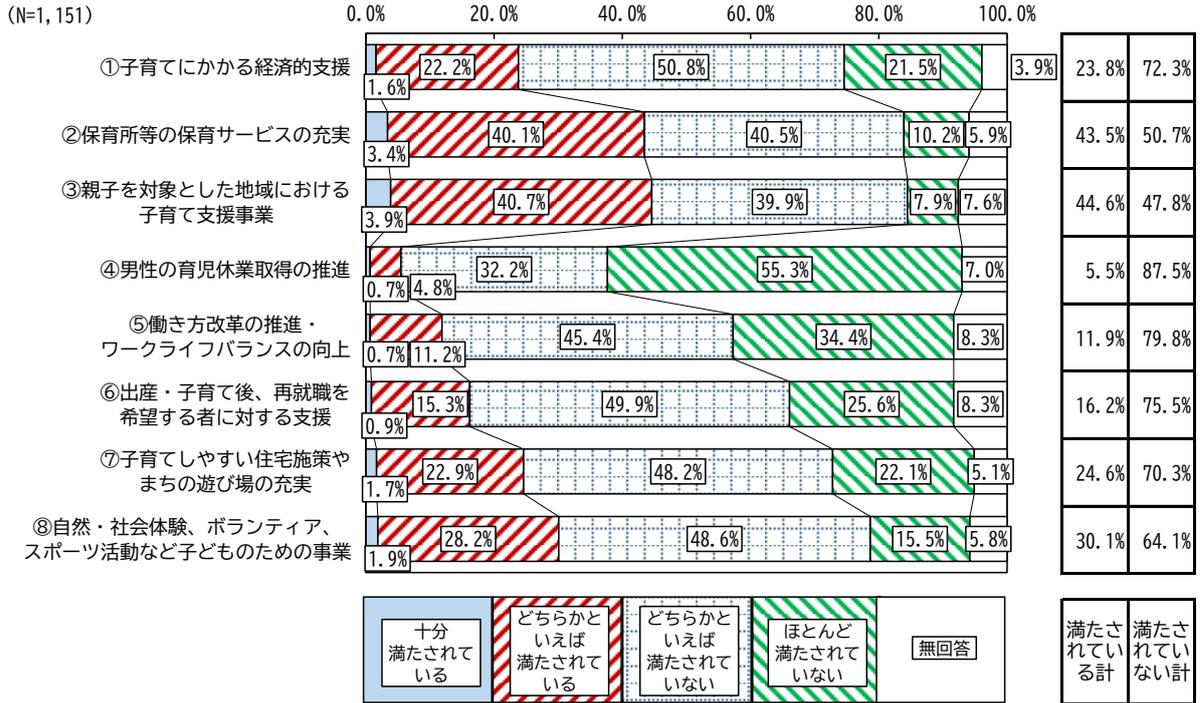
図表 子育て支援に関する満足度



※「③親子の仲間づくり」「④気軽に相談ができる場所づくり」「⑪子育てについて相談できる地域サポーターの存在」「⑫所得の向上」「⑬子どもに対する医療制度の充実」「⑭産後ケアに関する制度の拡充」は今回調査からの新規項目

※「⑧子育てしやすい住宅施策」「⑨地域の遊び場の充実」はH30 県調査では「子育てしやすい住宅施策やまちの遊び場の充実」となっていた

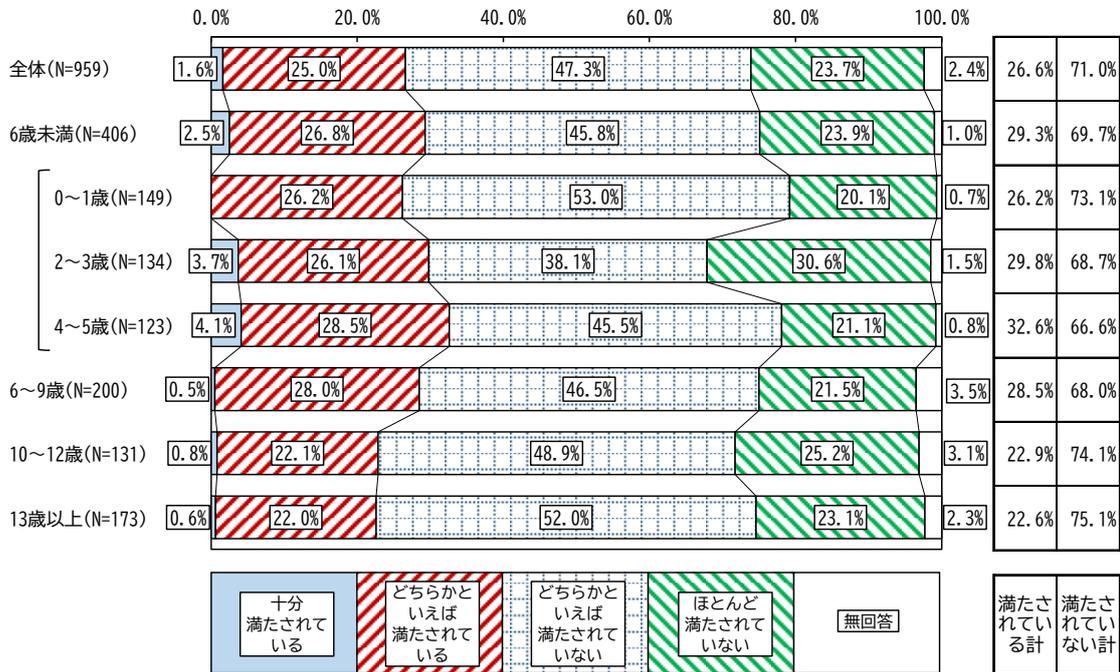
図表 子育て支援に関する満足度 (H30 県調査)



①子育てにかかる経済的支援

子育てにかかる経済的支援については、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で32.6%と最も高く、末子が13歳以上の家庭で22.6%と最も低い。

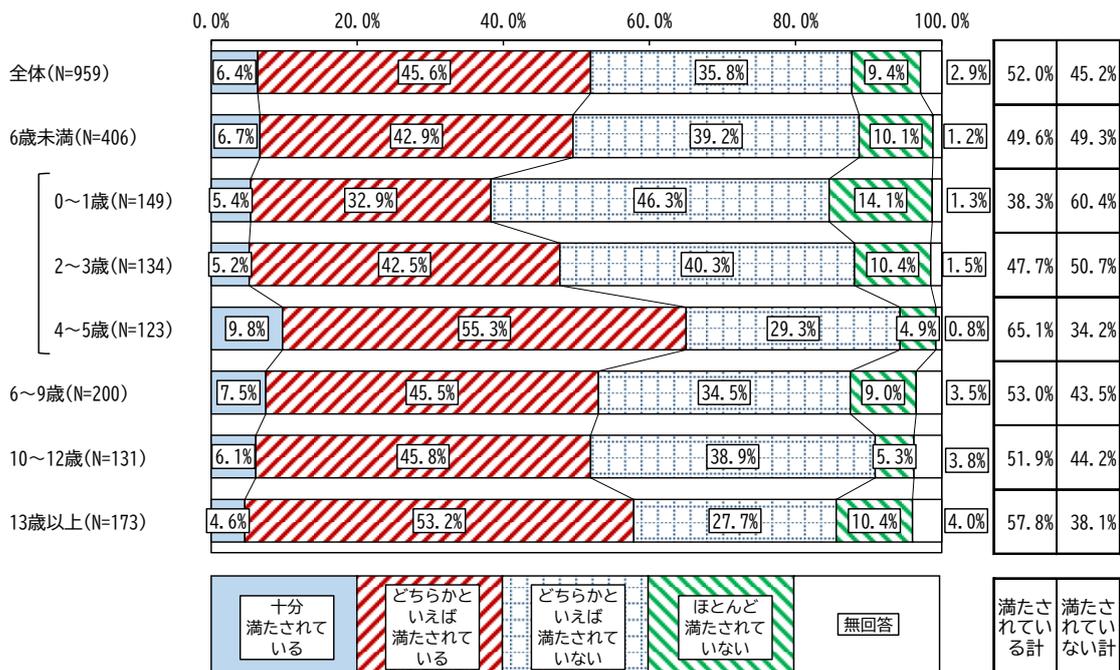
図表 末子年齢別・子育てにかかる経済的支援



②保育所等の保育サービスの充実

保育所等の保育サービスの充実については、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で高く、末子が0～1歳の家庭で低い。

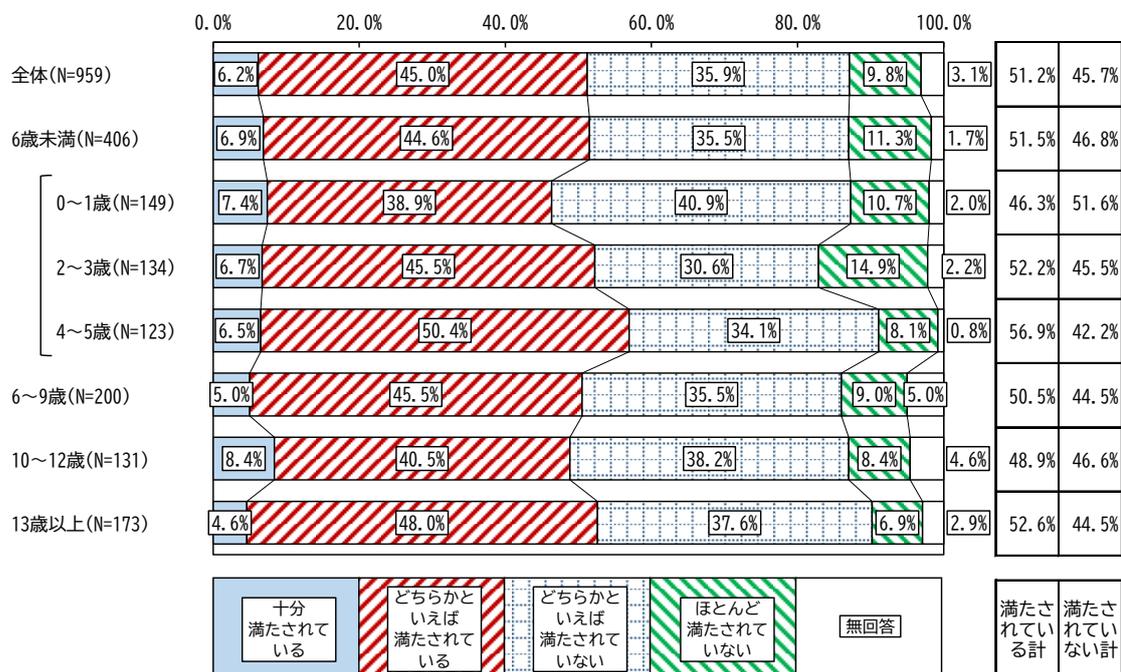
図表 末子年齢別・保育所等の保育サービスの充実



### ③親子の仲間づくり

親子の仲間づくりについては、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で56.9%と最も高く、末子が0～1歳の家庭で46.3%と最も低い。

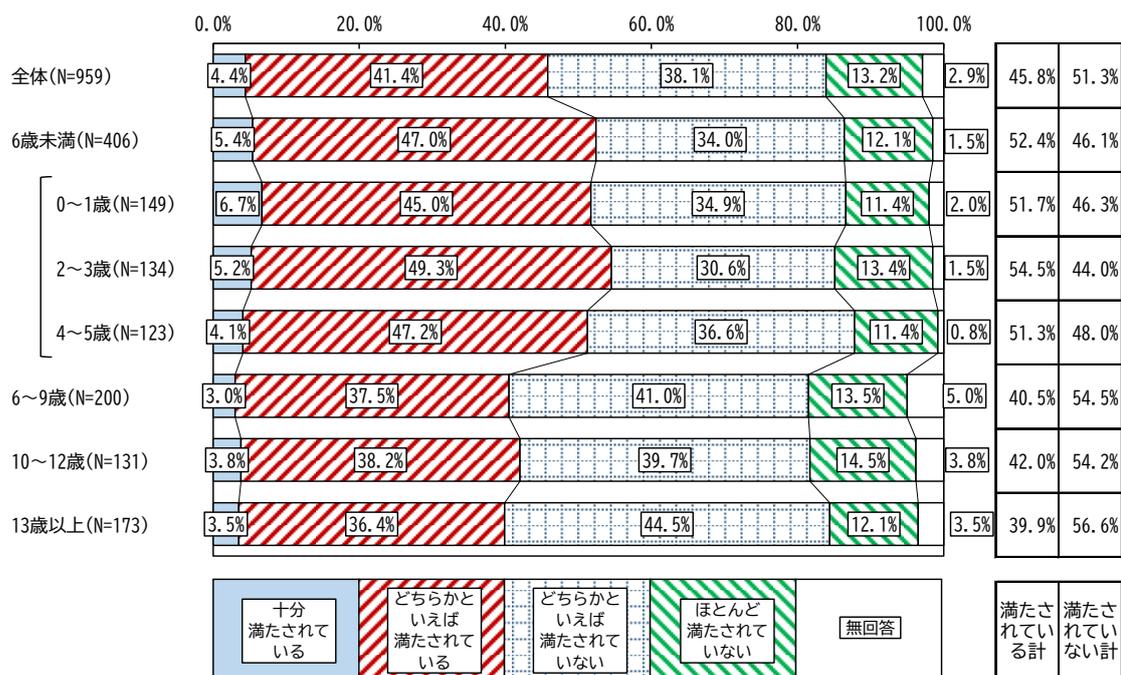
図表 末子年齢別・親子の仲間づくり



### ④気軽に相談ができる場所づくり

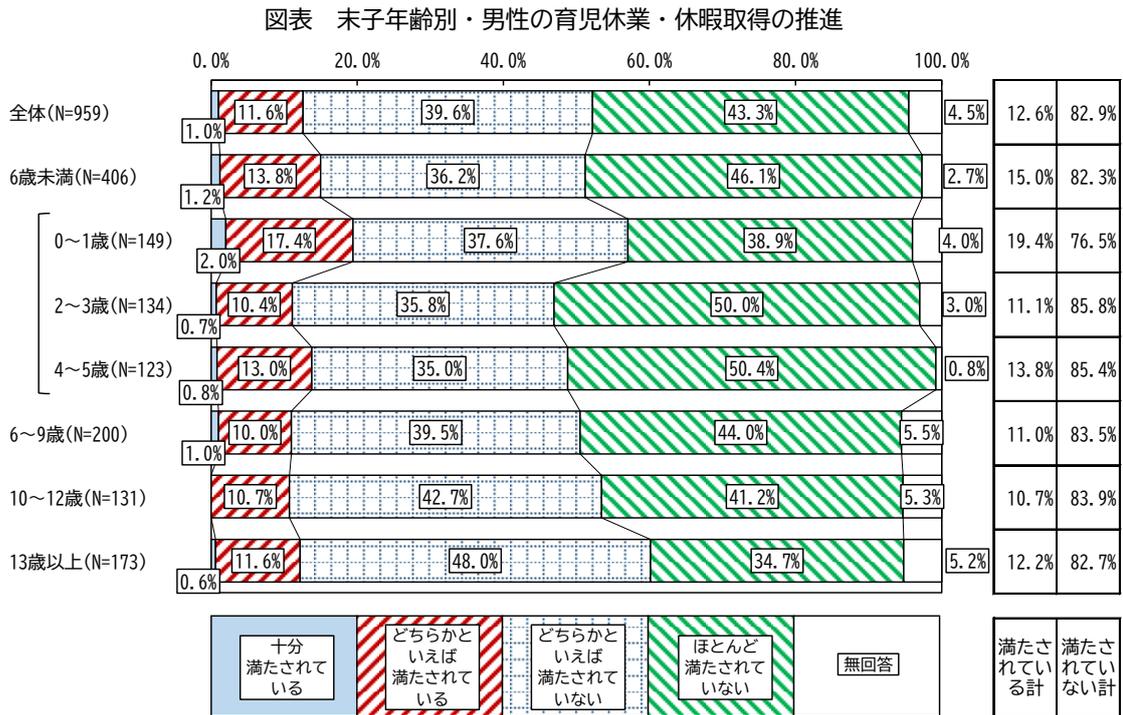
気軽に相談ができる場所づくりについては、満たされている計は、末子が0～5歳の家庭で5割以上と高く、13歳以上の家庭で39.9%と最も低い。

図表 末子年齢別・気軽に相談ができる場所づくり



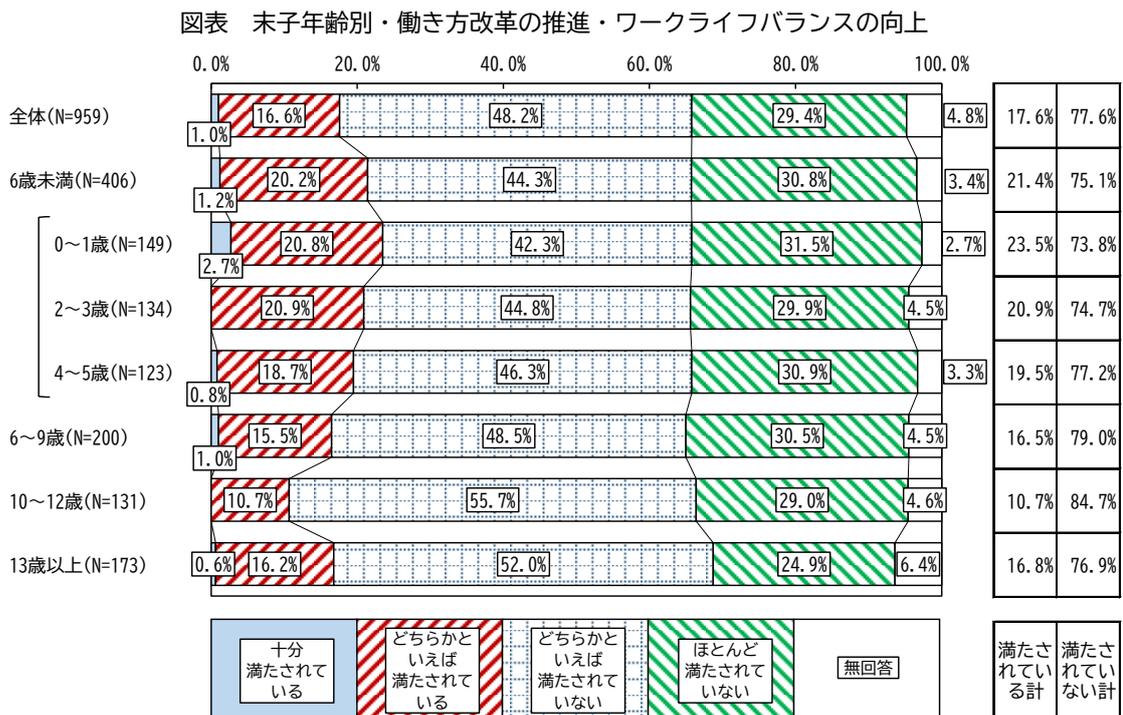
⑤男性の育児休業・休暇取得の推進

男性の育児休業・休暇取得の推進については、満たされている計は、末子が0～1歳の家庭で最も高いが19.4%に留まる。



⑥働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上

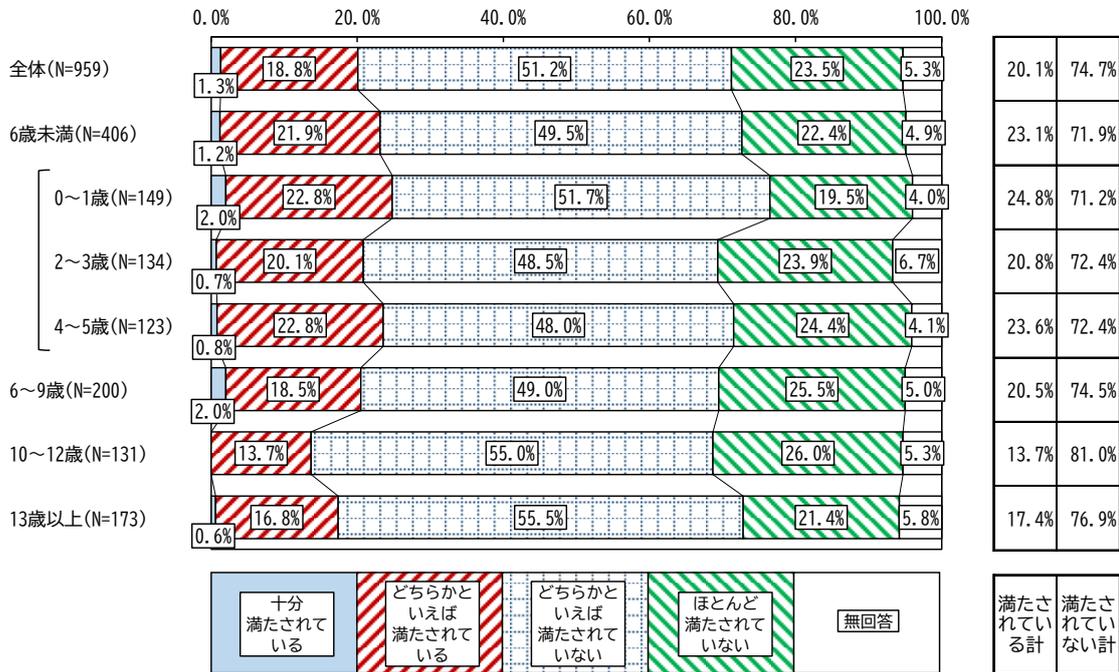
働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上については、満たされている計は、末子が0～1歳の家庭で23.5%と最も高く、末子が10～12歳の家庭で10.7%と最も低い。



⑦出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援

出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援については、満たされている計は、末子が0～1歳の家庭で24.8%と最も高く、末子が10～12歳の家庭で13.7%と最も低い。

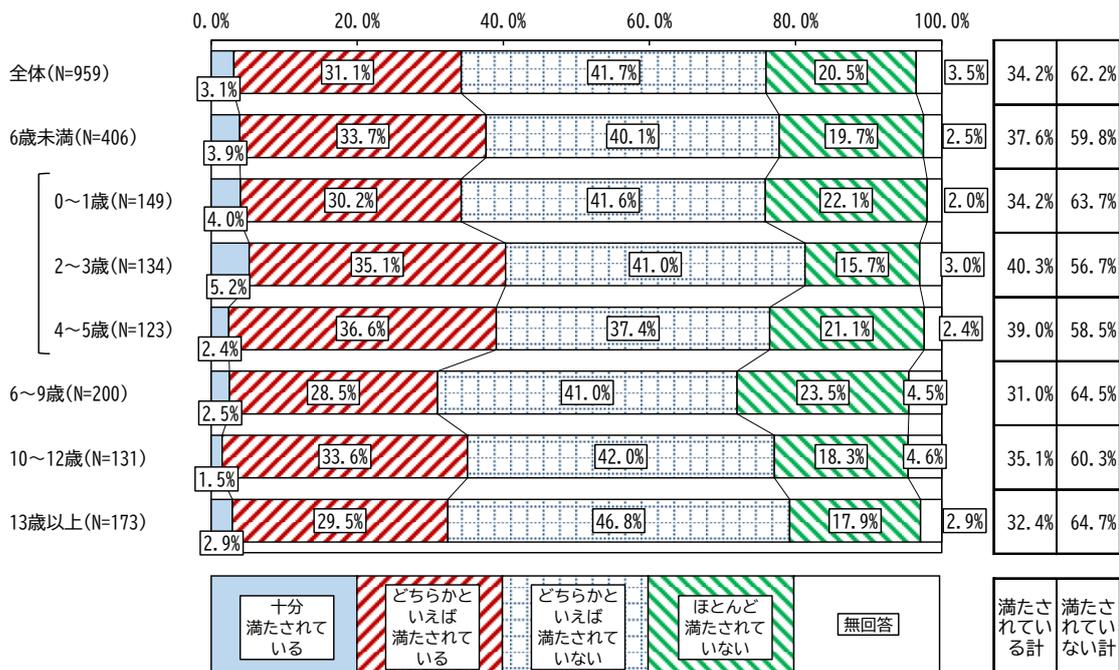
図表 末子年齢別・出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援



⑧子育てしやすい住宅施策

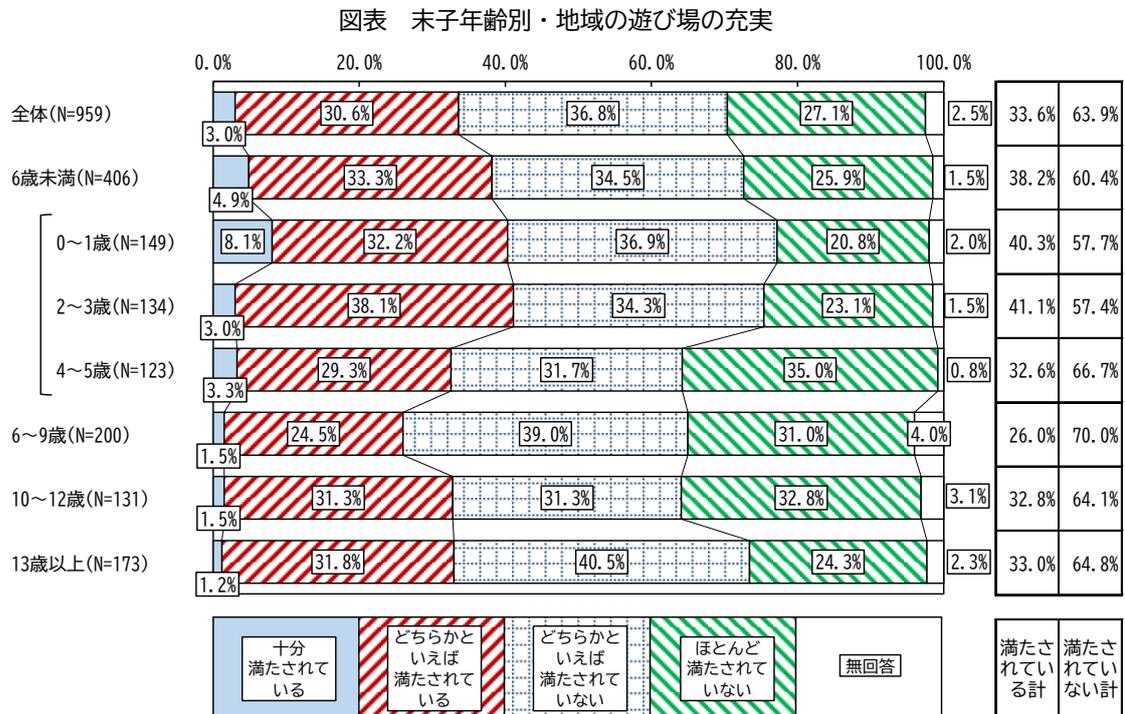
子育てしやすい住宅施策については、満たされている計は、末子が2～3歳の家庭で40.3%と最も高く、末子が6～9歳の家庭で31.0%と最も低い。

図表 末子年齢別・子育てしやすい住宅施策



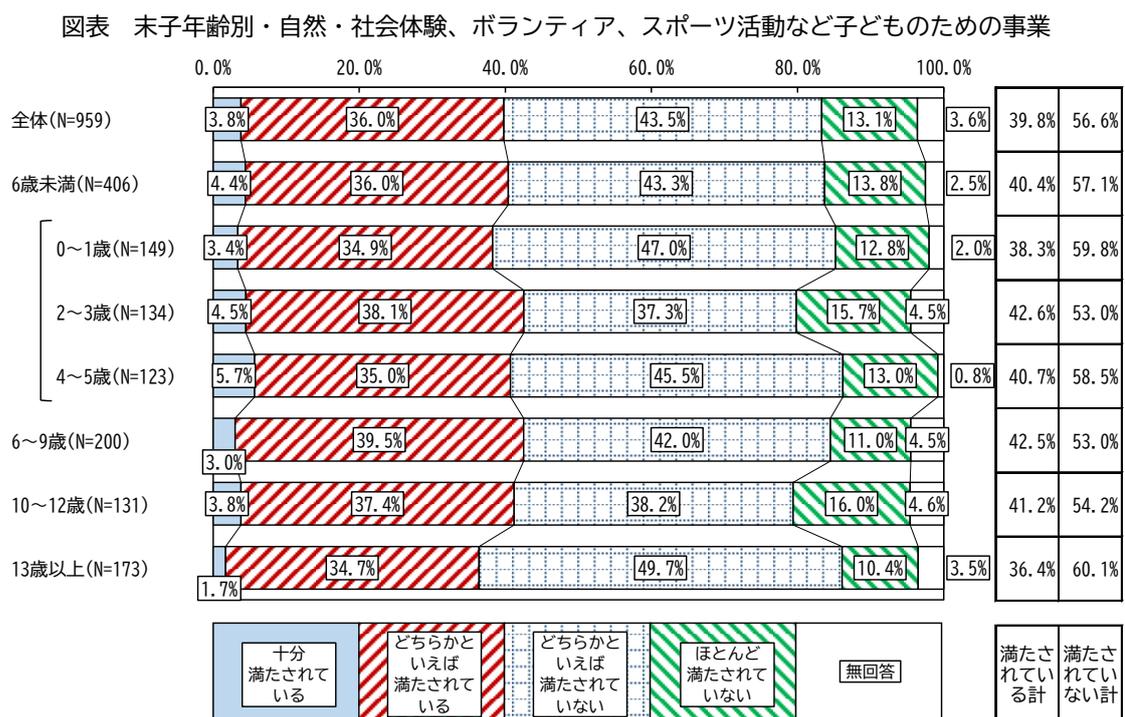
### ⑨地域の遊び場の充実

地域の遊び場の充実については、満たされている計は、末子が2～3歳の家庭で41.1%と最も高く、末子が6～9歳の家庭で26.0%と最も低い。



### ⑩自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業

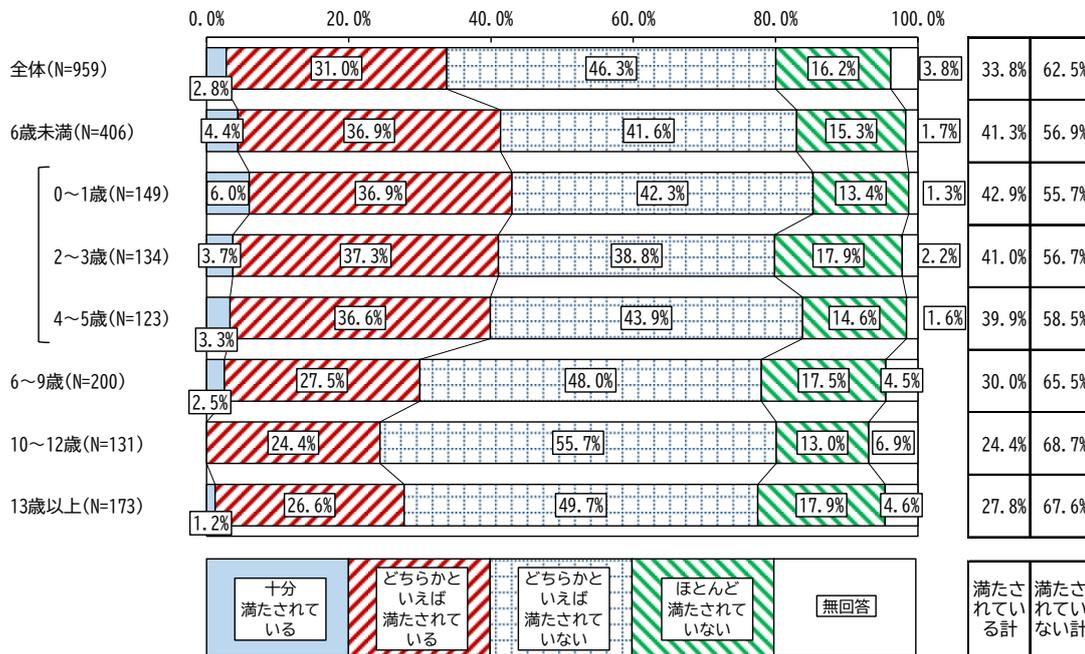
自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業については、満たされている計は、末子が2～3歳の家庭で42.6%と最も高いが、他の年齢層の家庭でも3割後半～4割前半とあまり差がない。



### ⑪子育てについて相談できる地域サポーターの存在

子育てについて相談できる地域サポーターの存在については、満たされている計は、末子が0～1歳の家庭で42.9%と最も高く、末子が10～12歳の家庭で24.4%と最も低い。

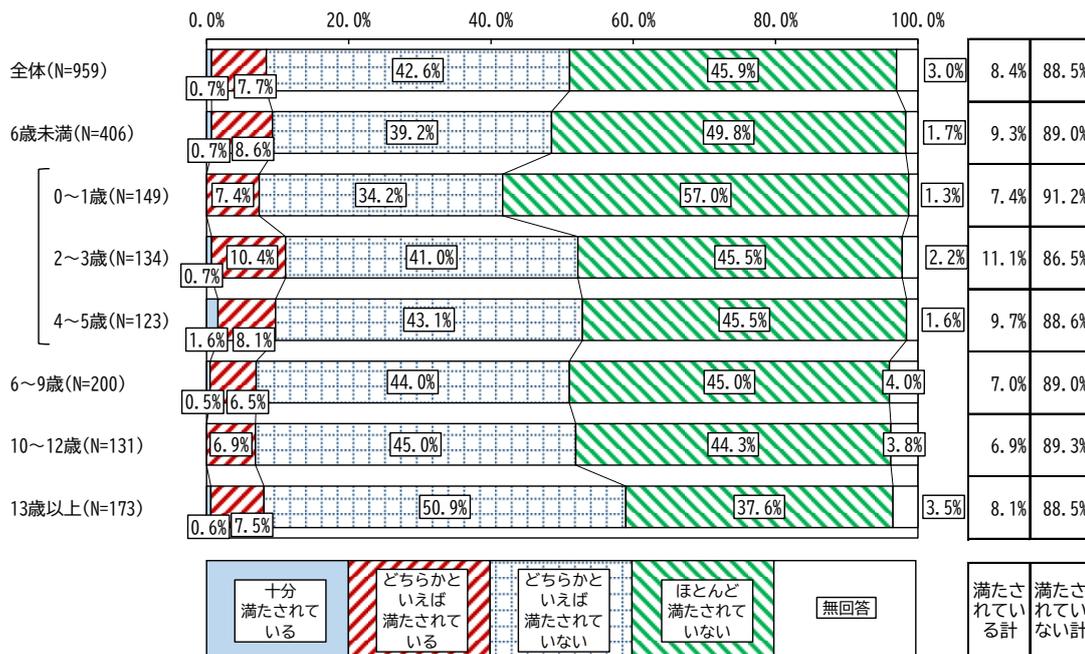
図表 末子年齢別・子育てについて相談できる地域サポーターの存在



### ⑫所得の向上

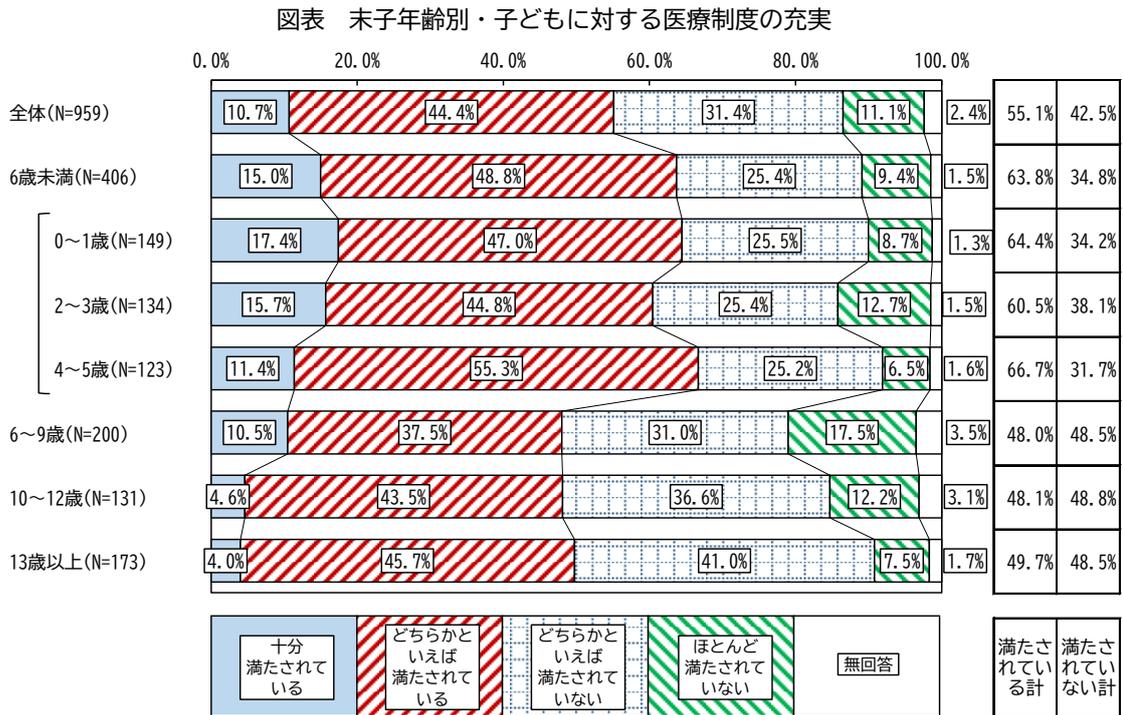
所得の向上については、満たされている計は、末子の年齢に関わらず、6～11%程となっているが、末子が0～1歳の家庭で「ほとんど満たされていない」が57.0%と、他の年齢層の家庭より約10ポイント以上高くなっている。

図表 末子年齢別・所得の向上



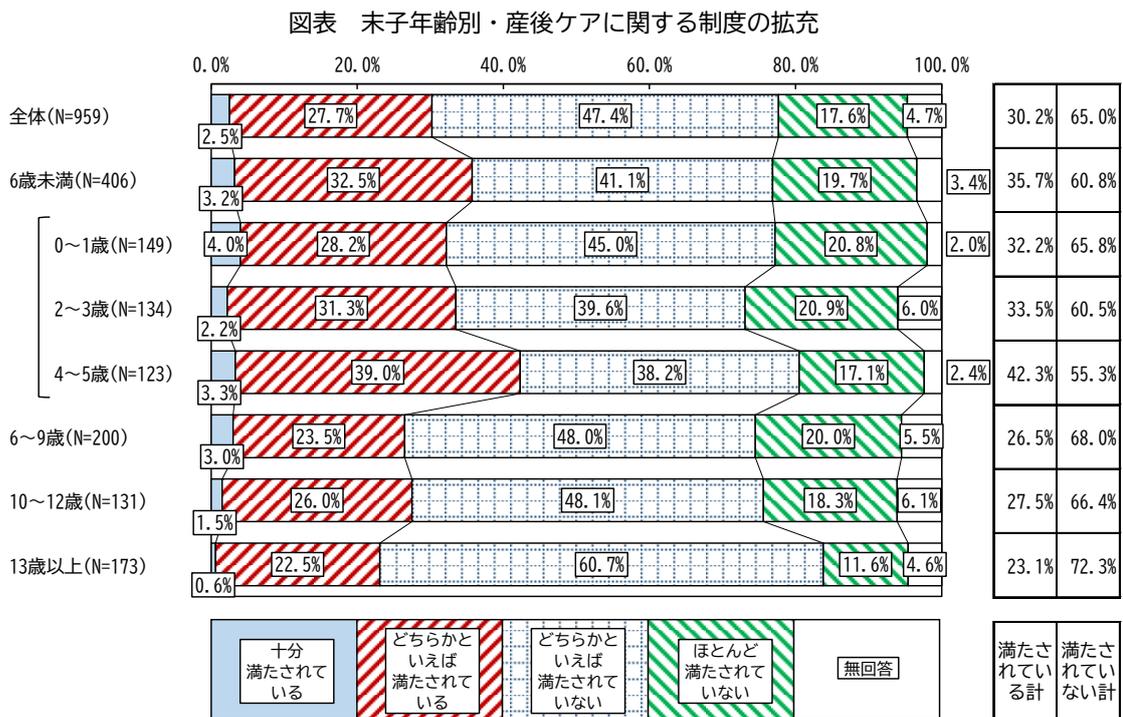
### ⑬子どもに対する医療制度の充実

子どもに対する医療制度の充実については、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で66.7%と最も高く、末子が6～9歳が48.0%と最も低い。



### ⑭産後ケアに関する制度の拡充

産後ケアに関する制度の拡充については、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で42.3%と最も高く、末子が13歳以上の家庭で23.1%と最も低い。

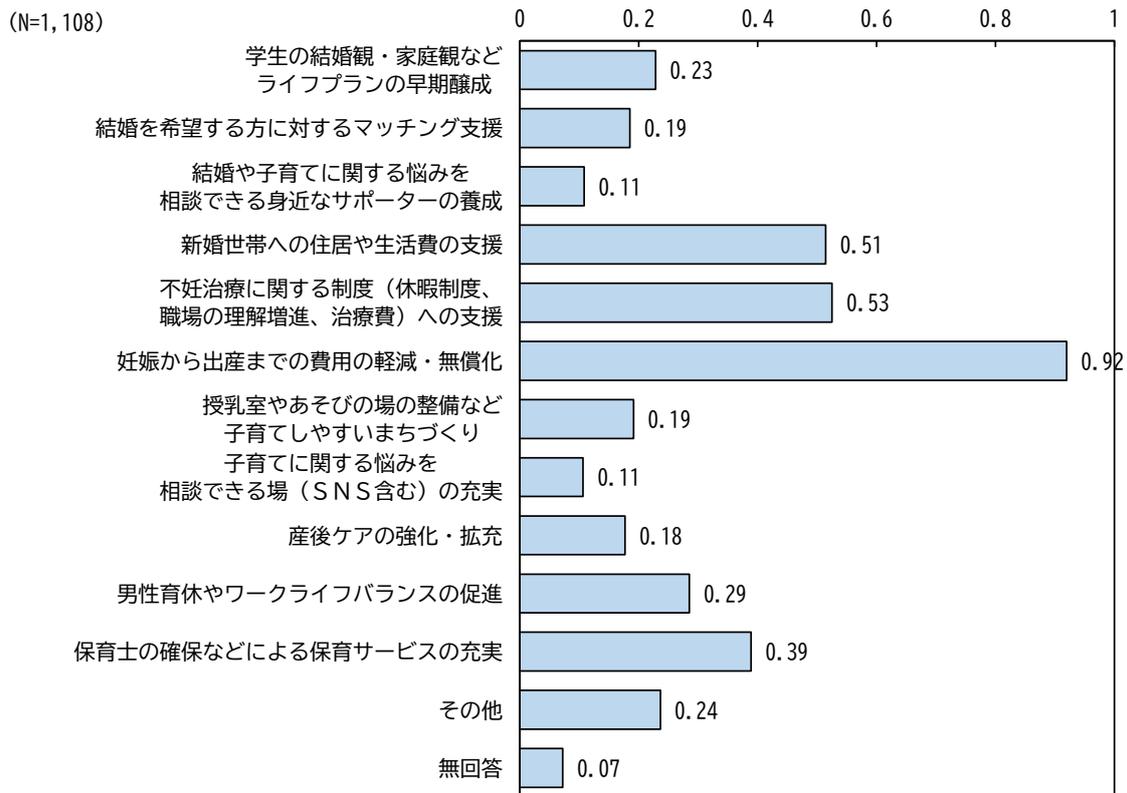


(5) 希望する人数を生き育てられるようにするために必要な取組み

問 23 希望する人数の子どもを生き育てられるようにするために、以下の1~12のうち、何が重要だと思いますか。最重要だと思うものを1つ、次に重要だと思うものを2つ選んで記入してください。

希望する人数を生き育てられるようにするために必要な取組みをみると、「妊娠から出産までの費用の軽減・無償化」が0.92点で最も多く、次いで、「不妊治療に関する制度（休暇制度、職場の理解増進、治療費）への支援」が0.53点、「新婚世帯への住居や生活費の支援」が0.51点、「保育士の確保などによる保育サービスの充実」が0.39点、「男性育休やワークライフバランスの促進」が0.29点となっている。

図表 希望する人数を生き育てられるようにするために必要な取組み



※新規質問項目

※最重要=2点、次に重要=1点として合計し、対象母数で割った値を得点とした

## (6) 子どもが3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況

お子さんをお持ちの方にかがいます。

問 24 あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、子育てに関する各制度や施設を利用しましたか。

子どもが3歳になるまでの間に利用した制度や施設は、第一子が「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」で44.0%、第二子が、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」で34.5%、第三子が「産前・産後休暇制度」で29.4%が最も多くなっている。次いで、第一子、第二子は「産前・産後休暇制度」「育児休業制度（妻）」と続き、第三子は「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」「育児休業制度（妻）」となっている。

第一子ほど利用が多い制度・施設が多いが、「認定子ども園（保育所と幼稚園が一体化した施設）」「育児休業制度（夫）」は第三子ほど利用が多くなっている。

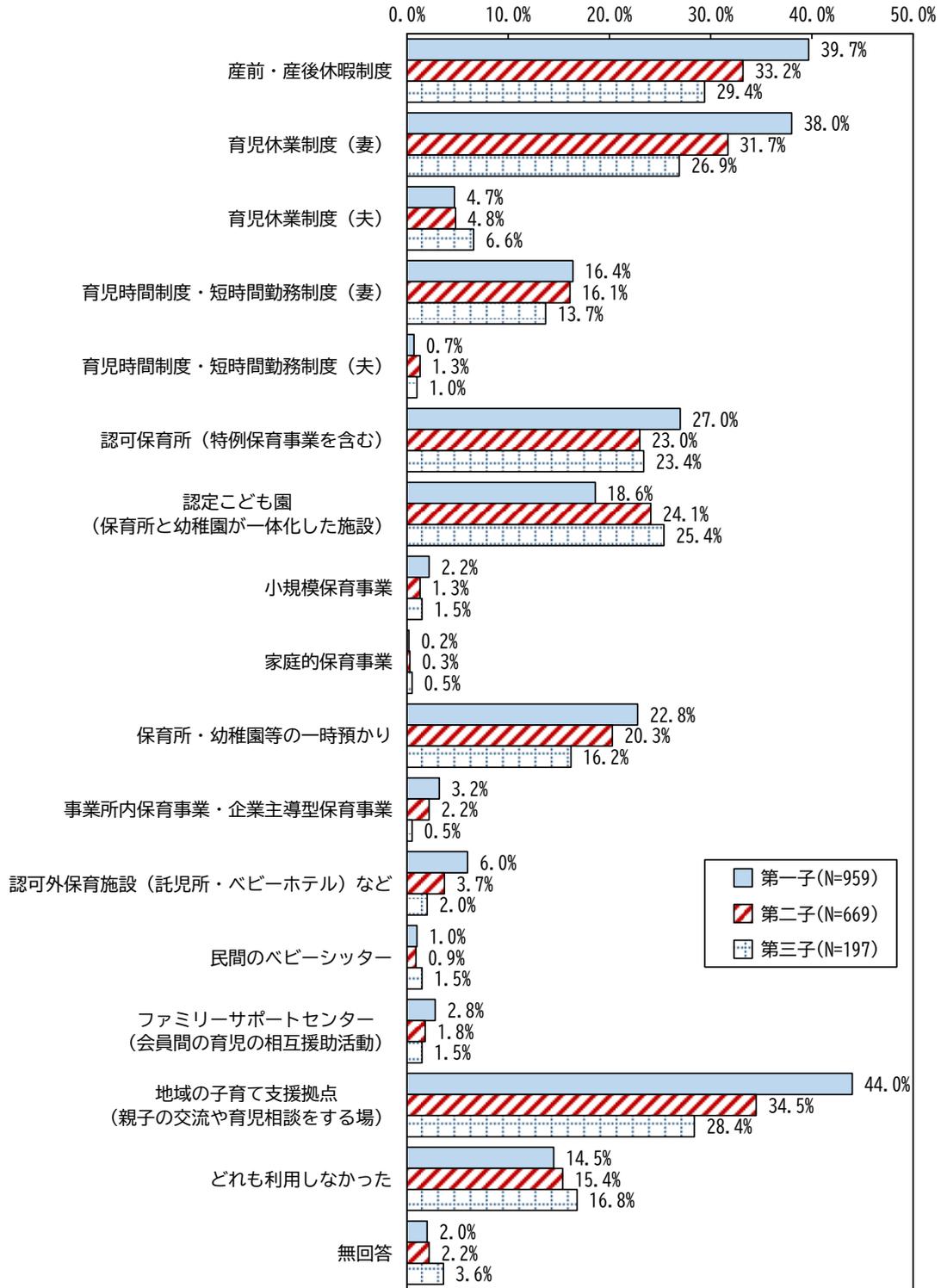
子どものいる初婚同士の夫婦で前回調査に比べて、第一子ではほとんどの制度・施設の割合が上昇しているが、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」は1.4ポイント低下している。上昇幅が大きいのは、「育児休業制度（妻）」で9.8ポイント、「産前・産後休暇制度」で9.4ポイントの上昇となっている。また、「どれも利用しなかった」は、前回調査の20.4%から4.9ポイント低下して15.5%となっている。

同様に、第二子でも、ほとんどの制度・施設の割合が上昇しており、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」の割合は、前回調査とほぼ同じとなっている。上昇幅が大きいのは、「産前・産後休暇制度」で9.6ポイント、「育児休業制度（妻）」で9.1ポイントの上昇となっている。「どれも利用しなかった」は、前回調査の24.8%から8.6ポイント低下して16.2%となっている。

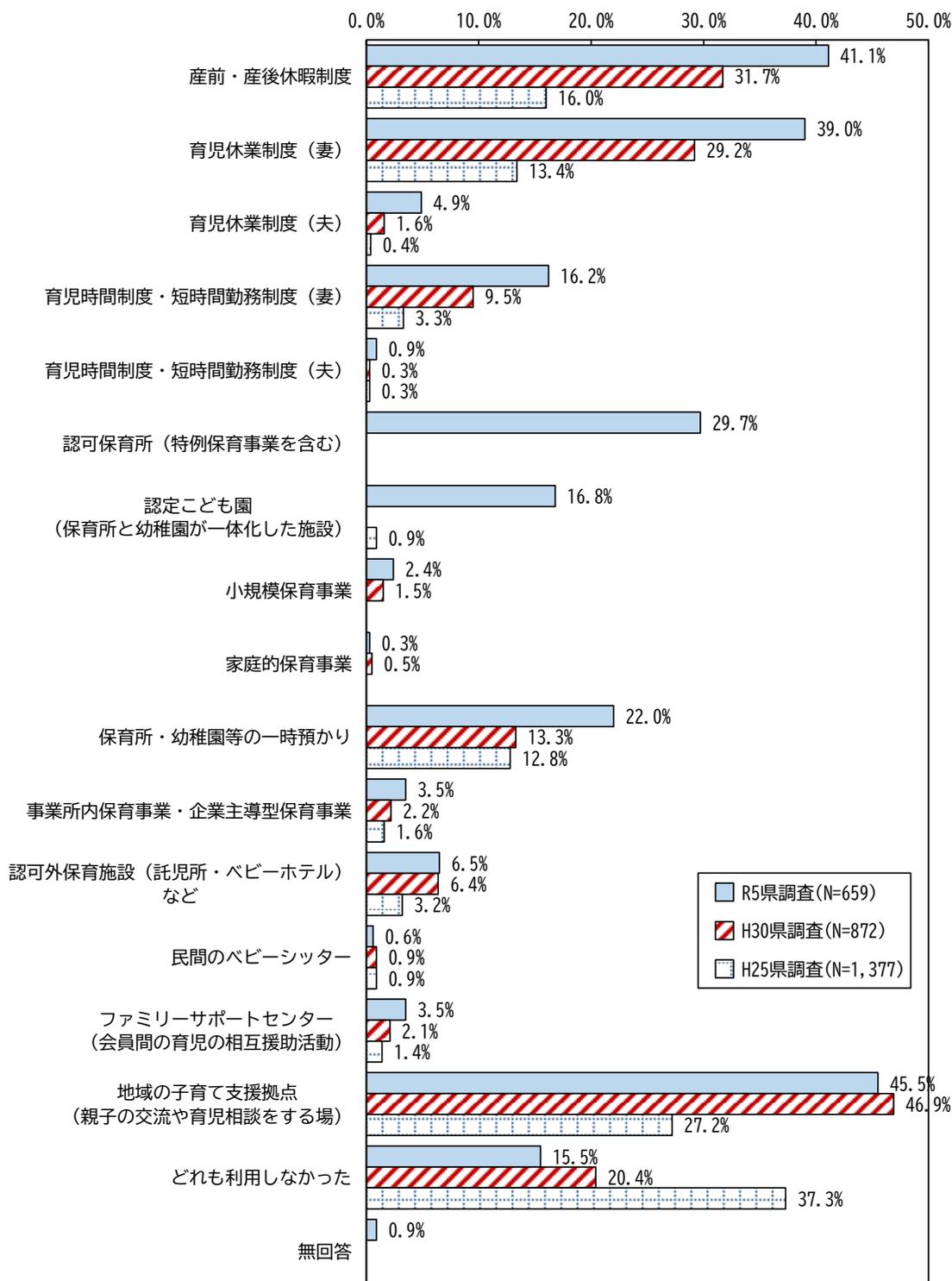
同様に、第三子でも、ほとんどの制度・施設の割合が上昇しているが、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」の割合は、前回調査とほぼ同じとなっている。上昇幅が大きいのは、「産前・産後休暇制度」で9.9ポイント、「育児休業制度（妻）」で7.8ポイントの上昇となっている。「どれも利用しなかった」は、前回調査の26.0%から6.3ポイント低下して19.7%となっている。

第一子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況を、妻の就業状況別にみると、就業継続中の妻では「産前・産後休暇制度」「育児休業制度（妻）」の割合は6割弱となっている。また、「育児時間制度・短時間勤務制度（妻）」「認可保育所（特例保育事業を含む）」「認定子ども園（保育所と幼稚園が一体化した施設）」も、就業継続中の妻で高くなっている。一方、「保育所・幼稚園等の一時預かり」は復職した妻、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」は、離職した妻が高くなっている。また、妻の就業状況に関わらず、「育児休業制度（夫）」「育児時間制度・短時間勤務制度（夫）」の利用率にはほとんど差はなく、いずれも6%未満となっている。

図表 子どもが3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況



図表 第一子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況（過去調査比較）



※R5 県調査、H30 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦、H25 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦の妻

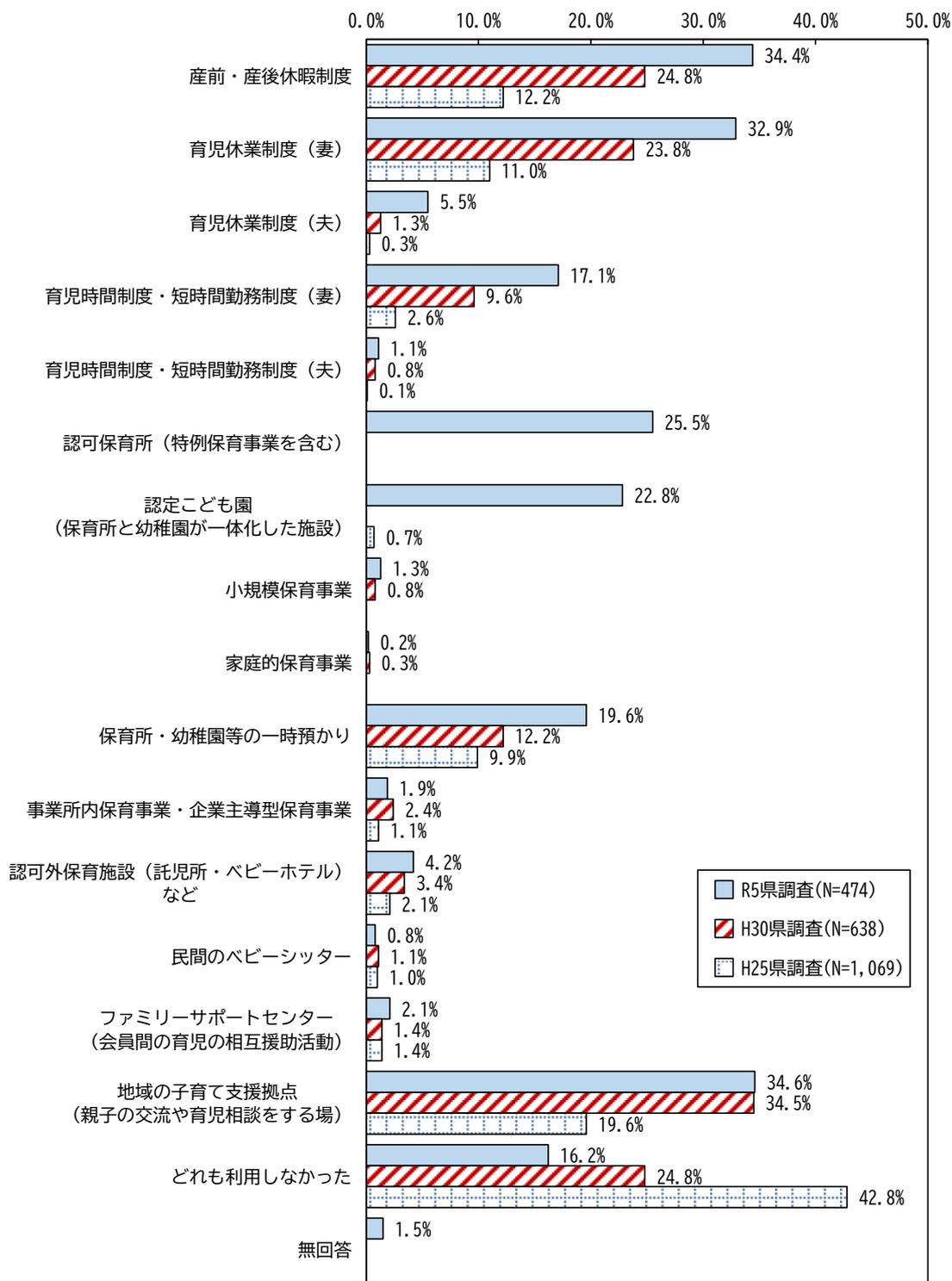
※H30 県調査、H25 県調査は「育児時間制度・短時間勤務制度」は「短時間勤務制度」、「事業所内保育事業・企業主導型保育事業」は「事業所内保育事業」であった。また、「認可保育所」は公立・私立の区別があった。また、無回答は掲載なし

※H30 県調査は「認定子ども園」は公立・私立の区別があった

※「小規模保育事業」「家庭的保育事業」は H30 県調査からの項目

※H25 県調査は「民間のベビーシッター」は「保育ママ（少人数の家庭的保育）・民間のベビーシッターなど」であった

図表 第二子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況（過去調査比較）



※R5 県調査、H30 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦、H25 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦の妻

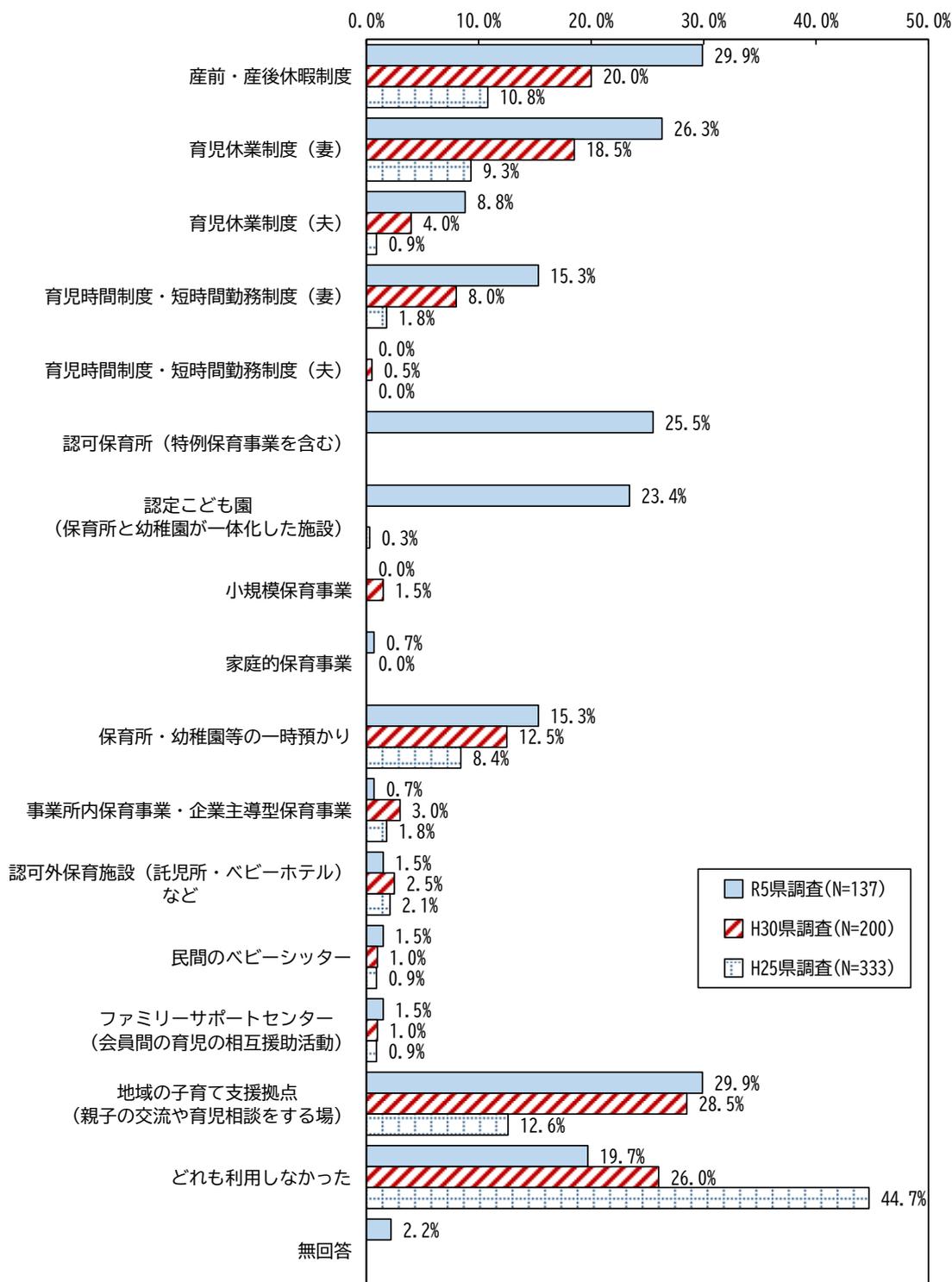
※H30 県調査、H25 県調査は「育児時間制度・短時間勤務制度」は「短時間勤務制度」、「事業所内保育事業・企業主導型保育事業」は「事業所内保育事業」であった。また、「認可保育所」は公立・私立の区別があった。また、無回答は掲載なし

※H30 県調査は「認定子ども園」は公立・私立の区別があった

※「小規模保育事業」「家庭的保育事業」は H30 県調査からの項目

※H25 県調査は「民間のベビーシッター」は「保育ママ（少人数の家庭的保育）・民間のベビーシッターなど」であった

図表 第三子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況（過去調査比較）



※R5 県調査、H30 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦、H25 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦の妻

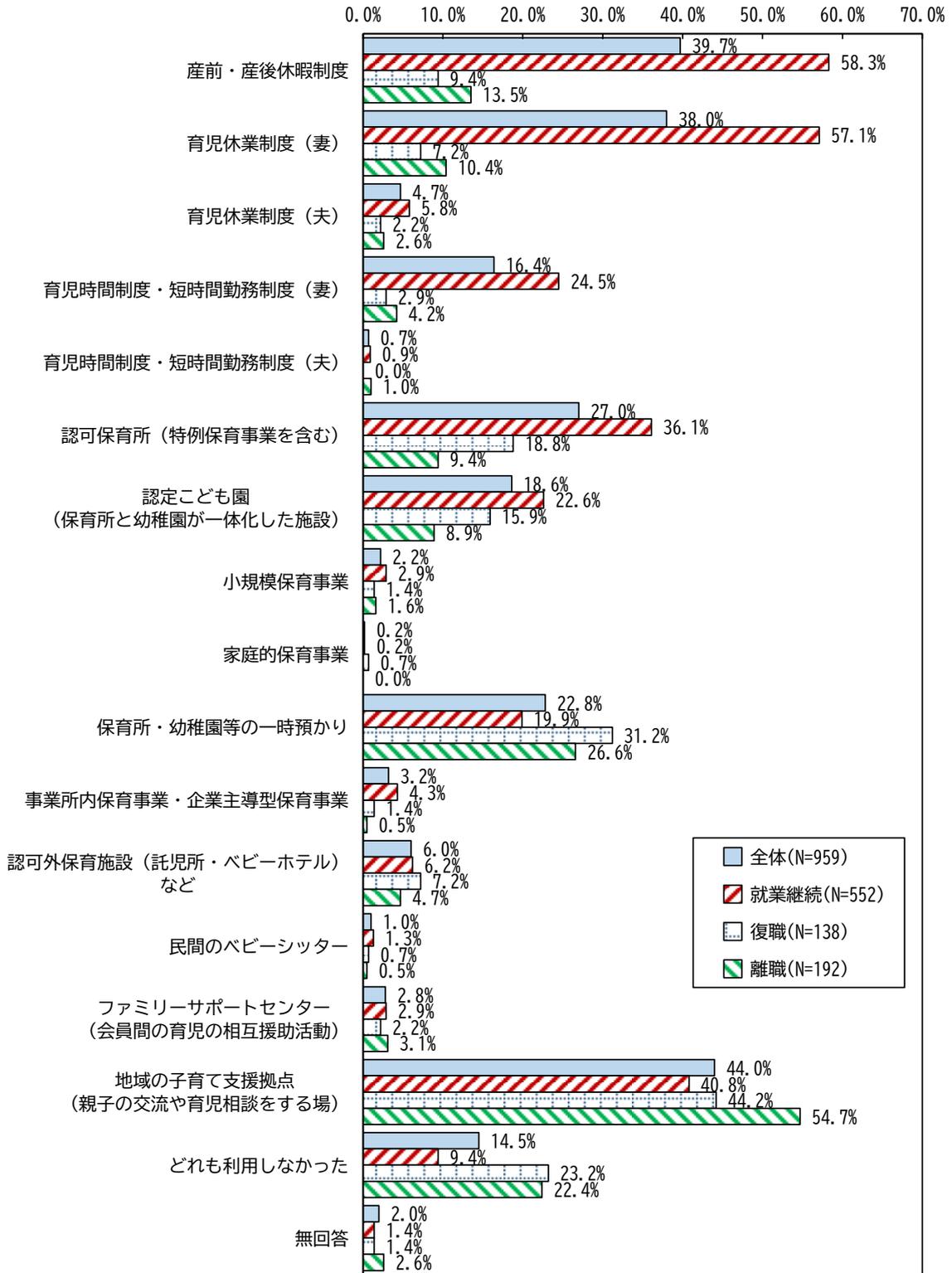
※H30 県調査、H25 県調査は「育児時間制度・短時間勤務制度」は「短時間勤務制度」、「事業所内保育事業・企業主導型保育事業」は「事業所内保育事業」であった。また、「認可保育所」は公立・私立の区別があった。また、無回答は掲載なし

※H30 県調査は「認定子ども園」は公立・私立の区別があった

※「小規模保育事業」「家庭的保育事業」は H30 県調査からの項目

※H25 県調査は「民間のベビーシッター」は「保育ママ（少人数の家庭的保育）・民間のベビーシッターなど」であった

図表 妻の就労継続状況別・第一子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況

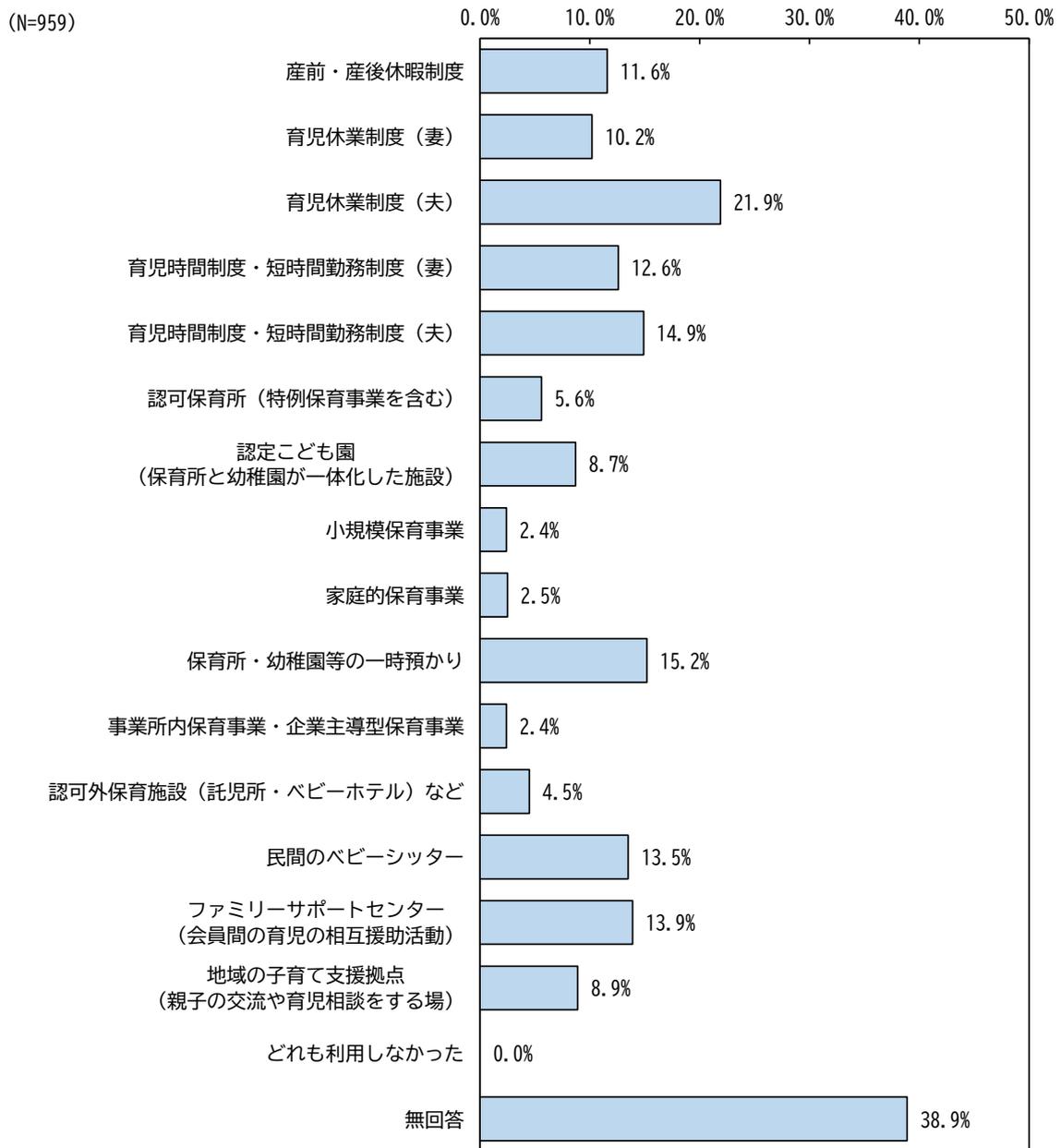


(7) 実際に利用してみたい(したかった)制度や施設

問 24-1 実際に利用してみたい(利用したかった)各制度や施設はどれですか。上記問 24 の 1~15 からあてはまるものすべての番号を選んでください。

実際に利用してみたい(利用したかった)制度や施設をみると、「育児休業制度(夫)」が21.9%で最も多く、次いで、「保育所・幼稚園等の一時預かり」が15.2%、「育児時間制度・短時間勤務制度(夫)」が14.9%となっている。

図表 実際に利用してみたい(したかった)制度や施設



※新規質問項目